

2020 年度
総会議案書

文書総会



日時 2020 年 6 月
富田林の自然を守る会

富田林の自然を守る会

事務局
富田林市若松町 4 丁目16-21
田渕武夫宅
TEL:090-8888-3912
e-mail:tabuchi@hb.tp1.jp

2020年度は新型コロナウイルス感染防止のため一同に会しての総会を行わず、文書による総会とします。第1号議案～第6号議案について建設的なご意見をいただければありがたいです。ご質問、ご意見、ご異議などがございましたら e-mail、電話、ファックス、手紙などで下記にご連絡ください。ご異議がなければ承認されたものとさせていただきます。ご異議の受付の締め切りは7月31日とします。ご協力よろしくお願いいたします。

議案

第1号議案	2019年度	活動報告
第2号議案	2019年度	会計報告
第3号議案	2019年度	会計監査報告
第4号議案	2020年度	活動方針・活動計画案
第5号議案	2020年度	予算案
第6号議案	2020月年度	役員案

連絡先

富田林の自然を守る会 代表 田淵武夫
住所：〒584-0024 富田林市若松町4丁目16-21
電話：090-8888-3912 ファックス：0721-24-7960
e-mail: tabuchi@hb.tpl.jp

第1号議案 2019年度事業報告

I. 活動の概要

3つの活動

「富田林の自然を守る会(守る会)」の活動は大きく次の3つに分けることができる。

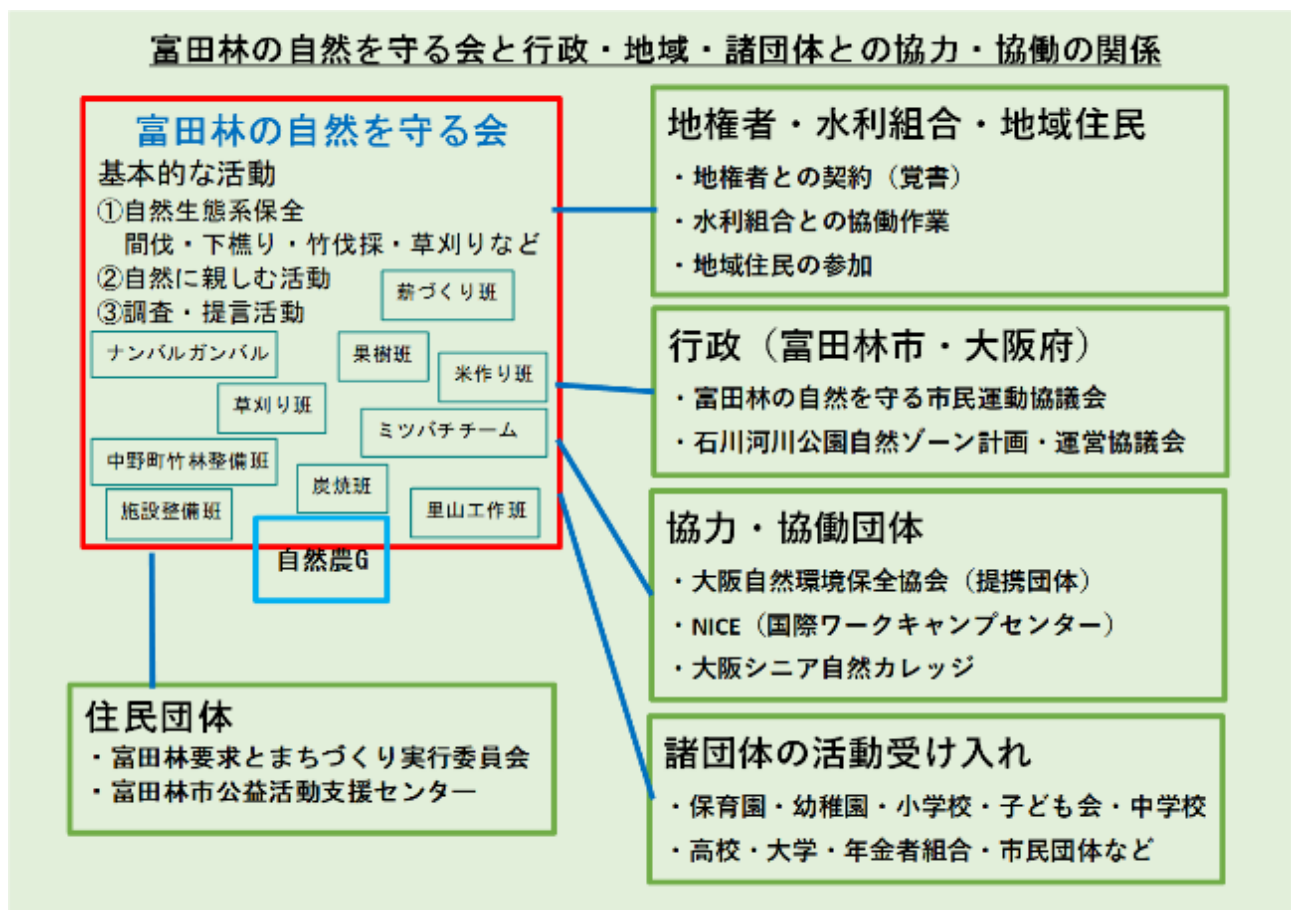
- ①自然環境保全、生物多様性保全の直接的な活動
(里山保全活動、市街地の自然保護、河川の自然保護など)。
- ②自然にかかわる文化的な活動
(自然に親しみ、自然の素晴らしさ・大切さを体感し理解する活動)。
- ③調査研究・提言・要望・啓発活動
(自然について調査・研究し、それに基づいて行政などへ自然環境保全について提言する、また市民に自然保護の大切さを啓発する活動)。

これら3つの活動をそれぞれ関連性をもって統一的に進めることが重要と考えている。

行政・地域・諸団体との協働

「守る会」は下図に示すように、地権者、地域住民、行政、その他多くの外部団体と協力・協働しながら活動を進めている。特に富田林市がつくる(市が事務局)「富田林の自然を守る市民運動協議会(協議会)」(市内の自然に関わる諸団体で構成)と一体となって活動を進めている。

自然を守る会が中心となって進めている協議会主催の行事は、①に関しては「里山ホリデー」、「中野町竹林整備」、②に関しては「米作り体験(田植え、稲刈り、稲こぎ)」、「春の野草を食べる会」、「里山クラフト」、「どんどと餅つき」、「里山生活入門」、「自然観察会(植物、昆虫、野鳥、水生生物)」、③に関しては「自然観察会(②と共通)」がある。「守る会」はこれらとは別に独自の行事(例えば「里山保全作業」)などにも取り組んだ。また、



図に示した各班の活動を通じて①、②、③に関わる活動を展開した。

また、「守る会」は上記のほか放棄田やその畦の草刈り管理や水生生物の保護などにも取り組んでいる。また、自然を守る会とNICE(日本国際キャンプセンター)との共催で国際ワークキャンプ、週末ワークキャンプなどに取り組んだ。

さらには、公益社団法人 大阪自然環境保全協会の講座（自然環境市民大学、新・里山講座、自然観察インストラクター養成講座）、大阪シニア自然カレッジの講座の受け入れ、外部の諸団体の行事の受け入れなども行った。

30周年記念事業

「守る会」は2019年度で設立30周年を迎えた。2019 年度を起点とする30周年記念事業として、奥の谷において観察路の整備とその両側10mの里山的管理を実施することとした。

助成金

また、「守る会」は2019年度に2つの助成金を得た。一つは林野庁からの「森林・山村多面的機能発揮対策交付金(さともり交付金)」(年額84,000 円×3 年)であり、もう一つはアメリカの企業のUPSから「国際補助金プログラム」として45,990 \$ (4,963,700円)の助成を受けた。これは3年程度の事業として、「里山の観察路の整備」および「市街化地域内の竹林の整備」がテーマとなっている。この助成金によって、奥の谷と中野町竹林に各1台のチップパーを購入した。



UPS の助成で購入したチップパー

主な活動地

「守る会」の主な活動地は、里山保全活動では「奥の谷」および「南原」で市街地の自然保護では「中野町竹林」である。

奥の谷地区は約 12ha あり、その内里山保全活動を行っているのは雑木林約 0.9ha、人工林約 0.8ha、竹林約 0.4ha、水田（放棄田を含む）約 0.1ha の合計約 2.3ha である。南原地区は約 5ha あり、その内里山保全活動を行っているのは水田（放棄田を含む）約 0.2ha、竹林約 0.1ha の合計約 0.3ha である。奥の谷地区、南原地区を合わせると 17ha 中里山保全活動を行っているのは 2.6ha である。

中野町の竹林は、2010 年より中野町の河岸段丘崖の約 0.13ha の竹林（新堂交番の背後の竹林）を自然再生と地域の憩いの場所として整備を行っている。

II. 具体的活動

これらについての具体的な活動について、以下に報告する。

(2) 中野町竹林整備班

中野町竹林は古くは千早赤阪城の出城である中野城に位置し、今では中野城址としてわずかに名をとどめるのみであるが、市街化地域にありながら真竹、孟宗竹がまとまった形で残された貴重なエリアである。

そこで2009年より放置され荒れていた状態から整備し始め、さらに2015年に地域の憩いの場としての活用も踏まえた基本整備案を作成し整備してきた。しかしながら参加人数の少なさに加え、月に1～2回各半日程度の作業では、竹の旺盛な繁殖力、降雨による作業の中止、近年大阪を襲った大型台風による被害も加わり遅々として作業が進まなかった。



竹林内の通路が整備された（上部平坦地）

2019年度は協議会としての活動（20回実施）以外に、中野町竹林整備班のメンバーを中心に自主活動（27回実施）も加え作業頻度を増やしてきた。さらにUPSからの助成で新たに購入したチップパーも寄与して間伐した竹の処理作業が飛躍的に向上した。その結果、2019年度末には2015年に作成した基本整備案がほぼ達成できた。



初めて咲いた記念樹のオオシマザクラ

また、中野町竹林の広場に2012年4月に記念植樹した桜が初めて花を咲かせた（フランスの青年2人がNICE中長期ボランティアとして6ヶ月間、中野町の黒田さんの古民家に滞在して竹林整備などに参加した記念）。

2020年の活動計画

新型コロナウイルスの影響もあり当面は活動が制限されることもあるが、整備された竹林を維持管理していくため、竹の伐採、チップパー作業、伐採木の処理、草刈り等を協議会活動（適宜自主活動も加え）として継続していくとともに、子どもを対象とした竹で遊ぶ会や地域の小学校の校外活動も可能な限り実施して行く。

（代表：塚原知行）

(3) 自然観察会

1. 植物観察会

植物観察会は4月20日(土)、6月2日(日)、9月21日(土)、10月27日(日)に予定したが、9月21日は雨のため中止した。4月と6月は開花していた植物(蕾を含む、木本類は果実を含む)を、10月はドングリの観察を行った。4月20日(土)

コース：奥の谷「みかん小屋」周辺。

参加人数：大人5人。

開花していた植物は草本類では25種で、そのうち外来種が5種みられ、外来種率は20.0%であった(表1)。木本類は7種〔アオキ、ウワミズザクラ、クサイチゴ、コナラ、ヤマザクラ、アオダモ、カラタチ(植栽)〕であった。

6月2日(日)

コース：金剛福祉センター～観心寺。

参加人数：大人5人。

開花していた植物は草本類では42種で、そのうち外来種が17種みられ、外来種率は32.7%であった(表1)。木本類はアオキ、クサイチゴ、コバノガマズミ、サルトリイバラ、モチツツジ、スイカズラ、ソヨゴ、ヤマハゼ、ナツハゼ、ネジキ、イヌツゲ、ヤブムラサキ、ノイバラの13種であった。

10月27日(日)

コース：春日神社～奥の谷。

参加者数：大人6人、子ども14人(富田林市子ども会連合会が参加した)。

観察した(拾った)どんぐりは、ツブラジイ、アラカシ、コナラ、マテバシイ、シリブカガシの5種であった。拾ったどんぐりは子供たちでポットに植えた。

No.	種名	在来種		No.	種名	外来種			
		4月20日	6月2日			4月20日	6月2日		
1	イヌガラン	○	26	タネツケバナ	○	1	アメリカイヌボウズキ	北アメリカ	○
2	ウシハコベ	○	27	チガヤ	○	2	アメリカカワロ	北アメリカ	○
3	ウツクシ	○	28	ドクダミ	○	3	アレチギシギシ	ヨーロッパ	○
4	ウツクシ	○	29	ナガバジャノヒゲ	○	4	ウツクシ	南アメリカ	○
5	オオバコ	○	30	ナズナ	○	5	オオバコ	ヨーロッパ	○
6	オオバコ	○	31	ニガナ	○	6	オオバコ	北アメリカ	○
7	オオバコ	○	32	ノアザミ	○	7	オオバコ	北アメリカ	○
8	カキドオシ	○	33	ノギシ	○	8	オオバコ	ヨーロッパ	○
9	カキドオシ	○	34	ノビル	○	9	ゲンゲ	中国	○
10	カキドオシ	○	35	ハハコグサ	○	10	コバノガマズミ	ヨーロッパ	○
11	カキドオシ	○	36	フキ	○	11	シロツメグサ	ヨーロッパ	○
12	クサノオ	○	37	ヘビイチゴ	○	12	セイヨウタンポポ	ヨーロッパ	○
13	クサノオ	○	38	ムラサキニガナ	○	13	ニワゼキショウ	北アメリカ	○
14	クサノオ	○	39	ミズヒキ	○	14	ハルジオン	北アメリカ	○
15	クサノオ	○	40	ムラサキニガナ	○	15	ヒメジョオン	北アメリカ	○
16	クサノオ	○	41	ムラサキニガナ	○	16	ヒメジョオン	北アメリカ	○
17	クサノオ	○	42	ムラサキニガナ	○	17	フナナ	ヨーロッパ	○
18	クサノオ	○	43	ヤブムラサキ	○	18	フランスギク	ヨーロッパ	○
19	クサノオ	○	44	ヤブムラサキ	○	19	フランスギク	ヨーロッパ	○
20	クサノオ	○	45	ヤブムラサキ	○	20	フランスギク	ヨーロッパ	○
21	クサノオ	○	46	ヤブムラサキ	○	21	フランスギク	ヨーロッパ	○
22	クサノオ	○	47	ヤブムラサキ	○	22	フランスギク	ヨーロッパ	○
23	クサノオ	○	48	ヤブムラサキ	○	23	フランスギク	ヨーロッパ	○
24	クサノオ	○	49	ヤブムラサキ	○	24	フランスギク	ヨーロッパ	○
25	クサノオ	○	50	ヤブムラサキ	○	25	フランスギク	ヨーロッパ	○
26	クサノオ	○	51	ヤブムラサキ	○	26	フランスギク	ヨーロッパ	○
27	クサノオ	○	52	ヤブムラサキ	○	27	フランスギク	ヨーロッパ	○
28	クサノオ	○	53	ヤブムラサキ	○	28	フランスギク	ヨーロッパ	○
29	クサノオ	○	54	ヤブムラサキ	○	29	フランスギク	ヨーロッパ	○
30	クサノオ	○	55	ヤブムラサキ	○	30	フランスギク	ヨーロッパ	○
31	クサノオ	○	56	ヤブムラサキ	○	31	フランスギク	ヨーロッパ	○
32	クサノオ	○	57	ヤブムラサキ	○	32	フランスギク	ヨーロッパ	○
33	クサノオ	○	58	ヤブムラサキ	○	33	フランスギク	ヨーロッパ	○
34	クサノオ	○	59	ヤブムラサキ	○	34	フランスギク	ヨーロッパ	○
35	クサノオ	○	60	ヤブムラサキ	○	35	フランスギク	ヨーロッパ	○
36	クサノオ	○	61	ヤブムラサキ	○	36	フランスギク	ヨーロッパ	○
37	クサノオ	○	62	ヤブムラサキ	○	37	フランスギク	ヨーロッパ	○
38	クサノオ	○	63	ヤブムラサキ	○	38	フランスギク	ヨーロッパ	○
39	クサノオ	○	64	ヤブムラサキ	○	39	フランスギク	ヨーロッパ	○
40	クサノオ	○	65	ヤブムラサキ	○	40	フランスギク	ヨーロッパ	○
41	クサノオ	○	66	ヤブムラサキ	○	41	フランスギク	ヨーロッパ	○
42	クサノオ	○	67	ヤブムラサキ	○	42	フランスギク	ヨーロッパ	○
43	クサノオ	○	68	ヤブムラサキ	○	43	フランスギク	ヨーロッパ	○
44	クサノオ	○	69	ヤブムラサキ	○	44	フランスギク	ヨーロッパ	○
45	クサノオ	○	70	ヤブムラサキ	○	45	フランスギク	ヨーロッパ	○
46	クサノオ	○	71	ヤブムラサキ	○	46	フランスギク	ヨーロッパ	○
47	クサノオ	○	72	ヤブムラサキ	○	47	フランスギク	ヨーロッパ	○
48	クサノオ	○	73	ヤブムラサキ	○	48	フランスギク	ヨーロッパ	○
49	クサノオ	○	74	ヤブムラサキ	○	49	フランスギク	ヨーロッパ	○
50	クサノオ	○	75	ヤブムラサキ	○	50	フランスギク	ヨーロッパ	○
51	クサノオ	○	76	ヤブムラサキ	○	51	フランスギク	ヨーロッパ	○
52	クサノオ	○	77	ヤブムラサキ	○	52	フランスギク	ヨーロッパ	○
53	クサノオ	○	78	ヤブムラサキ	○	53	フランスギク	ヨーロッパ	○
54	クサノオ	○	79	ヤブムラサキ	○	54	フランスギク	ヨーロッパ	○
55	クサノオ	○	80	ヤブムラサキ	○	55	フランスギク	ヨーロッパ	○
56	クサノオ	○	81	ヤブムラサキ	○	56	フランスギク	ヨーロッパ	○
57	クサノオ	○	82	ヤブムラサキ	○	57	フランスギク	ヨーロッパ	○
58	クサノオ	○	83	ヤブムラサキ	○	58	フランスギク	ヨーロッパ	○
59	クサノオ	○	84	ヤブムラサキ	○	59	フランスギク	ヨーロッパ	○
60	クサノオ	○	85	ヤブムラサキ	○	60	フランスギク	ヨーロッパ	○
61	クサノオ	○	86	ヤブムラサキ	○	61	フランスギク	ヨーロッパ	○
62	クサノオ	○	87	ヤブムラサキ	○	62	フランスギク	ヨーロッパ	○
63	クサノオ	○	88	ヤブムラサキ	○	63	フランスギク	ヨーロッパ	○
64	クサノオ	○	89	ヤブムラサキ	○	64	フランスギク	ヨーロッパ	○
65	クサノオ	○	90	ヤブムラサキ	○	65	フランスギク	ヨーロッパ	○
66	クサノオ	○	91	ヤブムラサキ	○	66	フランスギク	ヨーロッパ	○
67	クサノオ	○	92	ヤブムラサキ	○	67	フランスギク	ヨーロッパ	○
68	クサノオ	○	93	ヤブムラサキ	○	68	フランスギク	ヨーロッパ	○
69	クサノオ	○	94	ヤブムラサキ	○	69	フランスギク	ヨーロッパ	○
70	クサノオ	○	95	ヤブムラサキ	○	70	フランスギク	ヨーロッパ	○
71	クサノオ	○	96	ヤブムラサキ	○	71	フランスギク	ヨーロッパ	○
72	クサノオ	○	97	ヤブムラサキ	○	72	フランスギク	ヨーロッパ	○
73	クサノオ	○	98	ヤブムラサキ	○	73	フランスギク	ヨーロッパ	○
74	クサノオ	○	99	ヤブムラサキ	○	74	フランスギク	ヨーロッパ	○
75	クサノオ	○	100	ヤブムラサキ	○	75	フランスギク	ヨーロッパ	○
76	クサノオ	○	101	ヤブムラサキ	○	76	フランスギク	ヨーロッパ	○
77	クサノオ	○	102	ヤブムラサキ	○	77	フランスギク	ヨーロッパ	○
78	クサノオ	○	103	ヤブムラサキ	○	78	フランスギク	ヨーロッパ	○
79	クサノオ	○	104	ヤブムラサキ	○	79	フランスギク	ヨーロッパ	○
80	クサノオ	○	105	ヤブムラサキ	○	80	フランスギク	ヨーロッパ	○
81	クサノオ	○	106	ヤブムラサキ	○	81	フランスギク	ヨーロッパ	○
82	クサノオ	○	107	ヤブムラサキ	○	82	フランスギク	ヨーロッパ	○
83	クサノオ	○	108	ヤブムラサキ	○	83	フランスギク	ヨーロッパ	○
84	クサノオ	○	109	ヤブムラサキ	○	84	フランスギク	ヨーロッパ	○
85	クサノオ	○	110	ヤブムラサキ	○	85	フランスギク	ヨーロッパ	○
86	クサノオ	○	111	ヤブムラサキ	○	86	フランスギク	ヨーロッパ	○
87	クサノオ	○	112	ヤブムラサキ	○	87	フランスギク	ヨーロッパ	○
88	クサノオ	○	113	ヤブムラサキ	○	88	フランスギク	ヨーロッパ	○
89	クサノオ	○	114	ヤブムラサキ	○	89	フランスギク	ヨーロッパ	○
90	クサノオ	○	115	ヤブムラサキ	○	90	フランスギク	ヨーロッパ	○
91	クサノオ	○	116	ヤブムラサキ	○	91	フランスギク	ヨーロッパ	○
92	クサノオ	○	117	ヤブムラサキ	○	92	フランスギク	ヨーロッパ	○
93	クサノオ	○	118	ヤブムラサキ	○	93	フランスギク	ヨーロッパ	○
94	クサノオ	○	119	ヤブムラサキ	○	94	フランスギク	ヨーロッパ	○
95	クサノオ	○	120	ヤブムラサキ	○	95	フランスギク	ヨーロッパ	○
96	クサノオ	○	121	ヤブムラサキ	○	96	フランスギク	ヨーロッパ	○
97	クサノオ	○	122	ヤブムラサキ	○	97	フランスギク	ヨーロッパ	○
98	クサノオ	○	123	ヤブムラサキ	○	98	フランスギク	ヨーロッパ	○
99	クサノオ	○	124	ヤブムラサキ	○	99	フランスギク	ヨーロッパ	○
100	クサノオ	○	125	ヤブムラサキ	○	100	フランスギク	ヨーロッパ	○
101	クサノオ	○	126	ヤブムラサキ	○	101	フランスギク	ヨーロッパ	○
102	クサノオ	○	127	ヤブムラサキ	○	102	フランスギク	ヨーロッパ	○
103	クサノオ	○	128	ヤブムラサキ	○	103	フランスギク	ヨーロッパ	○
104	クサノオ	○	129	ヤブムラサキ	○	104	フランスギク	ヨーロッパ	○
105	クサノオ	○	130	ヤブムラサキ	○	105	フランスギク	ヨーロッパ	○
106	クサノオ	○	131	ヤブムラサキ	○	106	フランスギク	ヨーロッパ	○
107	クサノオ	○	132	ヤブムラサキ	○	107	フランスギク	ヨーロッパ	○
108	クサノオ	○	133	ヤブムラサキ	○	108	フランスギク	ヨーロッパ	○
109	クサノオ	○	134	ヤブムラサキ	○	109	フランスギク	ヨーロッパ	○
110	クサノオ	○	135	ヤブムラサキ	○	110	フランスギク	ヨーロッパ	○
111	クサノオ	○	136	ヤブムラサキ	○	111	フランスギク	ヨーロッパ	○
112	クサノオ	○	137	ヤブムラサキ	○	112	フランスギク	ヨーロッパ	○
113	クサノオ	○	138	ヤブムラサキ	○	113	フランスギク	ヨーロッパ	○
114	クサノオ	○	139	ヤブムラサキ	○	114	フランスギク	ヨーロッパ	○
115	クサノオ	○	140	ヤブムラサキ	○	115	フランスギク	ヨーロッパ	○
116	クサノオ	○	141	ヤブムラサキ	○	116	フランスギク	ヨーロッパ	○
117	クサノオ	○	142	ヤブムラサキ	○	117	フランスギク	ヨーロッパ	○
118	クサノオ	○	143	ヤブムラサキ	○	118	フランスギク	ヨーロッパ	○
119	クサノオ	○	144	ヤブムラサキ	○	119	フランスギク	ヨーロッパ	○
120	クサノオ	○	145	ヤブムラサキ	○	120	フランスギク	ヨーロッパ	○
121	クサノオ	○	146	ヤブムラサキ	○	121	フランスギク	ヨーロッパ	○
122	クサノオ	○	147	ヤブムラサキ	○	122	フランスギク	ヨーロッパ	○
123	クサノオ	○	148	ヤブムラサキ	○	123	フランスギク	ヨーロッパ	○
124	クサノオ	○	149	ヤブムラサキ	○	124	フランスギク	ヨーロッパ	○
125	クサノオ	○	150	ヤブムラサキ	○	125	フランスギク	ヨーロッパ	○
126	クサノオ	○	151	ヤブムラサキ	○	126	フランスギク	ヨーロッパ	○
127	クサノオ	○	152	ヤブムラサキ	○	127	フランスギク	ヨーロッパ	○
128	クサノオ	○	153	ヤブムラサキ	○	128	フランスギク	ヨーロッパ	○
129	クサノオ	○	154	ヤブムラサキ	○	129	フランスギク	ヨーロッパ	○
130	クサノオ	○	155	ヤブムラサキ	○	130	フランスギク	ヨーロッパ	○
131	クサノオ	○	156	ヤブムラサキ	○	131	フランスギク	ヨーロッパ	○
132	クサノオ	○	157	ヤブムラサキ	○	132	フランスギク	ヨーロッパ	○
133	クサノオ	○	158	ヤブムラサキ	○	133	フランスギク	ヨーロッパ	○
134	クサノオ	○	159	ヤブムラサキ	○	134	フランスギク	ヨーロッパ	○
135	クサノオ	○	160	ヤブムラサキ	○	135	フランスギク	ヨーロッパ	○
136	クサノオ	○	161	ヤブムラサキ	○	136	フランスギク	ヨーロッパ	○
137	クサノオ	○	162	ヤブムラサキ	○	137	フランスギク	ヨーロッパ	○
138	クサノオ	○	163	ヤブムラサキ	○	138	フランスギク	ヨーロッパ	○
139	クサノオ	○	164	ヤブムラサキ	○	139	フランスギク	ヨーロッパ	○
140	クサノオ	○	165	ヤブムラサキ	○	140	フランスギク	ヨーロッパ	○
141	クサノオ	○	166	ヤブムラサキ	○	141	フランスギク	ヨーロッパ	○
142	クサノオ	○	167	ヤブムラサキ	○	142</			

(4) 文化的行事

春の野草を食べる会

開催年月日：2019年4月29日（水；昭和の日）。

参加者数：大人31人、子ども5人 計36人。

みんなで摘んできた野草について解説し、調理した。メニューはヨモギ団、ヨメナご飯、タケノコご飯、野草のおひたし（セリなど）、ノビルのぬた、タケノコの木の芽和え、各種野草の天ぷらなどであった。この行事は毎年大変好評で、前年よりは参加人数は少なかったが、にぎやかで楽しい催しであった。

里山クラフト（蔓細工）

開催年月日：2019年11月23日（土；勤労感謝の日）。

参加者数：大人10人、子ども5人 計15人。

佐々木孝氏を講師に実施した。午前中は山に入りフジ、アケビ、アオツヅラフジなどの蔓を採取し、午後はそれを用いて籠やリース作りを行った。



つるを編む



作品をもって

どんどもちつき

開催年月日：2020年1月12日（日）。

参加者数：大人40人、子ども16人 計56人。

最初に書初めを行い、続いてどんど焼きを行った。そのあともちつきを行った。きな粉もち、あんこ餅、雑煮などを作り、みんなで楽しく食べた。どんどの準備は前日に守る会とNICEで行った。



もちつき



どんど

里山生活入門

開催年月日：2020年1月26日（日）。

参加者数：大人6人、子ども2人 計8人。

協議会参加団体の「嶽の会」が中心に取り組んだ。これまでは自然観察路整備を実施してきたが、2019年度からは「里山生活入門」と称して、奥の谷の自然を満喫できる内容に変更し。最初に「里山とは？」の簡単な説明の後、雑木林、間伐を進めている植林地（スギ・ヒノキ林）、整備中の竹林、炭焼き窯などを案内し、奥の谷（里山）の現状を見て歩いた。その後、薪割り、たき火、稲わらでの縄づくりなどを体験してもらい、最後はかまどを使って昼ご飯を作った。参加者全員たき火を囲んで楽しく食事し交流できた。

これらの行事は「富田林の自然を守る市民運動協議会」主催で「自然を守る会」が担当して実施された。



縄ができたよ



たき火

(5) 米つくり班

米作りの活動は、自然を守る会の文化的活動（自然に親しみ、自然への理解を深める活動）のひとつとして長年続けられてきた。米作り班は、従来からの田、5年前から始まったもち田、以前から自然農法で独自の米作りを行っていた会員さんの田、の三つの田んぼでの米作り作業をスムーズに、また水路や畔、猪栅の管理点検を共同で行うために出来た。そして、地元の方たちからは、耕運機の貸し出しや、日ごろの田の水管理などで多くの援助をいただいている。

2019年度は、6月5日の田植えこそ大人22名、子ども5名の27人の参加で実施できたものの、10月12日に予定していた稲刈りが雨のため13日に順延となったため、一般参加者が1名のみで、世話人と合わせて8名での作業となった。その影響もあってか、11月2日の脱穀も一般参加者は1名のみで世話人を合わせて9名だけの寂しい行事となった。稲刈り、脱穀とも、参加者にとっては大変な作業になった。

2019年度の米の収穫量は、うるち米(キヌヒカリ)約65Kg、糯米(コガネモチ)約28Kgであった。

◇年間の主な作業

- 1月上旬から 田んぼに水をためる(もち田)・・・冬期湛水
- 4月水路点検、水田周りの草刈り
- 4月20日頃 種もみ播き、苗代づくり
- 5月上旬から レンゲを耕す、牛ふん肥料散布、畔塗、耕運(うるち田)
- 6月上旬 代掻き(うるち田)
- 6月5日 田植え(うるち・もち田)
- 6月下旬 水田内の除草 水を絶やささない管理
- 7～8月 畔草刈り
- 10月13日 稲刈り 稲のはざかけ
- 11月2日 稲こぎ(脱穀)
- 12月 切りわらを散布(もち田) 猪栅の点検(うるち・もち田)



田植え



稲こぎ(脱穀)

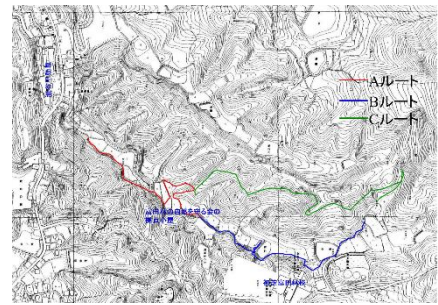
里山の景観の一部である水田は、独自の生態系を持ち、生物多様性の観点からも無くてはならないものである。できるだけ長く、豊かに維持できるよう米作りを続けたいと思っている。

(代表：三嶋富士夫、上角敦彦)

(6) 自然環境調査

モニタリング1000里地調査

モニタリング1000(モニ1000)里地調査は環境省が日本自然保護協会(NACS-J)に委託して実施している調査で、全国1000箇所まで同じコースを100年間調査するというものである。守る会は2009年から奥の谷で植物およびチョウの調査をルートセンサス法で行っている。植物は蕾、花、実のいずれかが見られる種を記録、チョウは出現した種と出現数を記録する。調査ルートは図1に示すように環境の違うA, B, Cの3ルートを設定している。



調査ルート

・植物(イネ科植物を除く)

2019年度の植物の調査結果を表1に示す。年間の全ルートでの観察植物種数は219種で、そのうち外来種は58種、外来種率は26.5%であった。環境省および大阪府のレッドリストに指定されている植物が3種見られた〔スズサイコ(環境省:準絶滅危惧、大阪府:準絶滅危惧Ⅱ類)、タチカモメヅル(大阪府:準絶滅危惧Ⅱ類)、ヒメミソハギ(大阪府:準絶滅危惧)〕。一方、生態系被害防止外来生物が27種、内特定外来生物が1種(ナルトサワギク)みられた。

年	月	日	参加者数	Aルート		Bルート		Cルート				
				種数	外来種率(%)	種数	外来種率(%)	種数	外来種率(%)			
2019	4	19	5	46	10	25.0	52	13	25.0	6	0	0.0
	5	24	6	52	17	32.7	69	26	37.7	14	1	7.1
	6	28	7	52	14	26.9	61	26	42.6	14	2	14.3
	7	26	6	63	17	27.0	59	20	33.9	16	1	6.3
	9	27	8	83	17	20.5	63	16	25.4	—	—	—
	10	25	6	65	14	21.5	72	21	29.2	20	6	30.0
	11	22	6	57	12	21.1	52	8	15.4	7	3	42.9
	12	20	5	41	11	26.8	33	11	33.3	4	2	50.0
	1	24	6	35	12	34.3	24	13	54.2	2	1	50.0
	2	28	6	24	6	25.0	20	10	50.0	4	0	0.0
	3	13	7	35	8	22.9	25	8	32.0	7	1	14.3
	年間			68	161	38	23.6	165	53	32.1	38	6
年間全ルート				全種数 221種	内外来種 59種	(外来種率 26.7%)						

・チョウ

2019年度のチョウの調査結果を表2に示す。年間の全ルートでのチョウの観察種数は38種で、ヒメウラナミジャノメが最も多く(289頭)、サトキマダラヒカゲ(64頭)、モンシロチョウ(57頭)、キチョウ(49頭)、ヤマトシジミ(36頭)、ベニシジミ(32頭)などが多くみられ、イチモンジセセリは1頭見られたのみであった。大阪府のレッドリストに指定されているオオチャバネセセリ(大阪府:準絶滅危惧)が見られた。

No.	調査月日	2019年							総数
		4.12	5.10	6.14	8.9	10.11	11.8		
		調査者数	7	6	5	6	4	7	35
1	アオスジアゲハ			5		1			6
2	アカタテハ				1				1
3	アゲハ			2	1	1			4
4	イチゲケチョウ			1	2				3
5	イチモンジセセリ						1		1
6	ウラギンシジミ			1		2	11		14
7	オオチャバネセセリ				1			3	4
8	キアゲハ			2	1				3
9	キタテハ			1					2
10	キチョウ			3	7	1	2	28	8
11	クオアゲハ			3				1	4
12	クロノマチョウ			1			1	1	3
13	クロヒカゲ			11	2				13
14	コジャノメ			9	5	1			15
15	コチャバネセセリ			19	1	1			21
16	コムシジ			7	7	1			8
17	サトキマダラヒカゲ			53	5	6			64
18	スジグロシロチョウ			2	1				3
19	ダイミョウセセリ			2					2
20	チャバネセセリ						5		5
21	ツバメシジミ			1	11	5	10		27
22	ツマキチョウ			3					3
23	ツマグロヒョウモン			2			4		6
24	テングチョウ			9	1	1		1	4
25	トラフシジミ			1					1
26	ナガサキアゲハ			7					7
27	ヒカゲチョウ				7	1			8
28	ヒメウラナミジャノメ			253	9	22	5		289
29	ヒメジャノメ				1	1			2
30	ベニシジミ			3	11	17	1		32
31	ムラサキシジミ				2	1			4
32	ムラサキツバメ			1		1			2
33	モンキアゲハ			1					1
34	モンキチョウ			2	2	8			12
35	モンシロチョウ				11	46			57
36	ヤマトシジミ					3	5	21	7
37	ルリシジミ			2	1	1			4
38	ルリタテハ			2					2

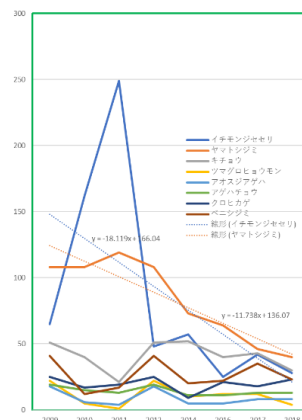
・10年間のまとめより(全国交流集会で報告)

NACS-Jは過去10年間のモニ1000の全国まとめを公表した。この中ではオオムラサキやイチモンジセセリなど里山にごく普通に生息する昆虫が10年間で大きく減少していると警告した。



スズサイコ

守る会は1月12日に神戸で開催されたモニ1000全国交流集会で奥の谷での調査結果を報告した。チョウの結果では10年間で57種がみられ、イチモンジセセリとヤマトシジミが大きく減少している(図1)一方でヒメウラナミジャノメは明らかに増加していた。植物では全コース、全調査期間で確認された種数は308種で、そのうち外来種は84種で外来種率は27.3%であった。在来種数がやや減少傾向で、外来種数がやや増加傾向がみられた。



錦織公園自然調査(大阪自然環境保全協)

公益社団法人 大阪自然環境保全協会
都市公園自然調査研究会の調査に協力し
年の調査をまとめて報告書が作成された。

フクロウの繁殖状況調査(大阪府立大学)

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科が奥の谷にフクロウの巣箱を設置し、繁殖状況の調査を2007年から実施しており、この調査に協力した。

た。2015-2019



設置した巣箱で育ったフクロウ

(7) 施設整備班

スギの大木などの製材

2018年9月に大阪を直撃した台風21号によって、奥の谷でも多くの倒木被害が発生した。特に「みかん小屋」前のスギの大径木が倒れた。2019年11月9日に塩田造林に依頼して伐採した。これを11月29日にイワキ木材で板に製材した。これらの板は主として施設整備に使用し、一部は寄付金の返礼品とする。



スギの大径木を軽トラに積み込む



製材（イワキ木材で）

木材保管棚の設置

上記で製材した板を置く場所を、製材に先立って、奥の谷の活動拠点の物置小屋の一角を改造して設置した。



木材保管棚の作成



整然と置かれた板

ミツバチチーム資材置き場を設置

ミツバチチーム巣箱作成用の資材、作成した巣箱などの専用の置き場所を物置小屋の一角に設置した。

薪小屋の増設

2017年の土砂崩れや2018年の風倒木などで薪の生産量が増え、より多くの薪を保管する場所が必要となったため前年に建設した薪小屋に連結して増設した。生産した薪はNICEの週末ワークキャンプでの「みかん小屋」の薪ストーブや炊事などに使用し、一部は寄付の返礼品として使用する。



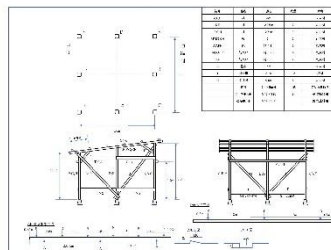
薪小屋建築作業



完成した増設部分

炭焼き小屋バックヤードの建設

炭焼班が中心となって、炭焼き小屋の前に間伐材を用いて建設した。炭焼きの資材置き場や主に炭焼班の休憩場所などとして使用する。（完成した写真は炭焼班のページを参照）



炭焼き小屋バックヤード設計図

バックヤード建築中
(完成写真は炭焼班報告参照)

奥の谷と中野町竹林にチッパー設置場所を設置

UPSからの助成により木材チッパー2台を購入、奥の谷と中野町竹林に各1台を置いて使用することになったため、保管場所が必要となり、それぞれに設置した。奥の谷では物置小屋の一角に設置。中野町竹林では林内に間伐材を用いて建築した。竹材を用いて屋根を葺いた。

(代表：市原二郎、楠本孝一)

(8) チームナンバルガンバル

目的：ネイチャー大阪（公益社団法人大阪自然環境保全協会）の講座（インストラクター養成講座）修了生を中心に、出来るだけ気軽に自然体験を行える場所を作ることを目的としています。2018年3月より、ネイチャー大阪が立ち上げた「カレーライスを本当に手作りするプロジェクト」の活動を受け入れ、より多くの一般の参加者を募集していく活動も始めました。

カレーライスを本当に手作りするプロジェクトの目的

- ・食べ物生き物からできているということを思い出すこと。
- ・料理の素材がどのように育ち、収穫され、流通し、販売されているかというプロセスを知ること。
- ・そのプロセスを知識としてではなく、体験を通じてわかる、ということ。

野菜やお米・お肉などを手作りする体験を通じて、普段の生活では感じにくい、それらを育てるためにはどのような環境が必要なのか、現状はどうなっているのか、考えるきっかけを作る。

活動日/参加者数/作業内容

4月7日/3人/田んぼの水入れ、畔塗。4月13日/28人/ショウガ、ターメリック、クミン、コリアンダーの植え付け(カレープロジェクト)。4月30日/10人/ナンバル草刈り。5月1日/4人/奥ノ谷トマトの植え付け(カレープロジェクト・中止)。5月18日/9人/玉ねぎ・にんにくの収穫をしてみよう(カレープロジェクト)。5月26日/4人/奥ノ谷の草刈り。6月2日/15人/大豆の種を植えてみよう(カレープロジェクト体験会4回)。6月15日/4人/ショウガ、ターメリック、トマト、ジャガイモ畑の手入れなど。6月22日/16人/じゃがいもの収穫をしてみよう(カレープロジェクト体験会5回)。7月6日/7人/クミンとバジルの収穫をしてみよう(カレープロジェクト体験会6回)。8月3日/4人/トマトとニンジンの収穫をしてみよう(カレープロジェクト体験会7回)。8月12日/5人/ナンバル収穫祭。8月31日/5人/竹鉄砲を作ってみよう(カレープロジェクト体験会8回・中止)。9月7日/15人/秋のジャガイモとニンジンも植えてみよう(カレープロジェクト体験会9回)。9月28日/8人/玉ねぎとニンニクを植えてみよう(カレープロジェクト体験会10回)。10月6日/33人/カレー皿も本当に手作りしよう第1回。10月14日/37人/稲刈りをしてみよう(カレープロジェクト体験会11回)。10月20日/9人/大豆の収穫をしてみよう(カレープロジェクト体験会12回)。11月4日/10人/脱穀をしてみよう(カレープロジェクト体験会13回)。11月23日/29人/カレー皿も本当に手作りしよう第2回。11月24日/8人/田畑の手入れをしてみよう(カレープロジェクト体験会14回)。12月7日/43人/カレー祭り。1月4日/11人/2020年度に何を作るかミーティング。1月13日/9人/ウコン染め&味噌づくり。2月9日/7人/奥ノ谷田んぼ溝掘り作業。2月24日/8人/ナンバル手入れ作業。3月15日/6人/じゃがいも植え付け、コリアンダー種まき。3月22日/12人/ヨモギ染め、唐辛子植え付け、田んぼの溝掘り。3月28日/5人/田んぼに水入れ作業。合計29回364人。

(代表：水元 勇)



収穫した稲



手作りした皿に盛り付けたカレー



参加者集合

(9) ミツバチチーム

ミツバチチームは、下記活動目的の基、2017年1月から活動を開始し、2019年度(2019/4/1～2020/3/31)は、以下13回の活動を行い、延べ104名が参加した。

活動目的

- ・養蜂文化を通しての人と自然のかかわりや里山の意義の理解
- ・里山の生物多様性向上
- ・養蜂によるミツバチ生態とミツバチ-植物間生態系の理解・普及

活動概要

前年度に飼育していた群は冬が越せず本年度初めまでにすべて消失した。本年度は、4月にツツジの丘で自然入居した群と5月に竜泉里山で捕獲した分蜂群(ヤマモモ横に設置)、6月に竜泉里山から譲ってもらった自然入居2群(クリ下とスギ下に設置)の合計4群を飼育した。活動としては、前年度に作った巣箱によるニホンミツバチの飼育・行動観察・生態理解、消失群からの蜂蜜の採取、採蜜後の巣板からの蜜蝋精製、休耕田整備(草刈り、排水路作り、猪防御柵設置)とソバ、ナタネ、レンゲの栽培、次年度に向けた間伐材による巣箱作り(製材、巣箱部材加工、組立・調整、蜜蝋塗り)、巣箱設置場所の整備と待ち箱設置、設置場所までの階段補修を行った。飼育した4群は、1群がオオスズメバチの襲撃で逃去した以外は、年末まで生きたが、徐々に弱り、年度末までに全群消失した。

次年度も今年度作った巣箱により4群を飼育、観察するとともに、休耕田でのソバ、ナタネの栽培、巣箱の製作を行う予定である。

活動日：活動内容(参加人数)

- ・5月26日(日)：休耕田等の草刈り(4名)
- ・6月7日(金)：巣箱内検と待ち箱回収(7名)
- ・6月8日(土)：竜泉里山で入居した巣箱を移設のため閉門(4名)
- ・6月9日(日)：奥の谷に巣箱移設、休耕田草刈りとソバ種まき(6名)
- ・10月11日(金)：休耕田草刈りとナタネ、レンゲの種まき(9名)
- ・11月5日(火)：休耕田排水路整備と猪防御柵整備(12名)
- ・11月12日(火)：猪防御柵整備、巣箱内検と防寒対策、採蜜(8名)
- ・11月29日(金)：杉材運搬と製材(守る会行事)(ミツバチチーム4名)
- ・12月2日(月)：巣箱部材加工(7名)
- ・12月24日(火)：巣箱部材加工、内検、採蜜(12名)
- ・1月16日(木)：巣箱部材加工、内検、採蜜、アカリダニ検査(9名)
- ・2月6日(木)：巣箱部材加工、路階段補修、採蜜、蜜蝋精製(10名)
- ・3月19日(木)：巣箱作り、待ち箱設置(12名)

(3月下旬は新型コロナウイルス対策のため行事は中止)

(代表：山本 哲)



入居したツツジの丘の巣箱



巣箱内の様子



休耕田整備と種まき



蜂蜜の溜まった巣



巣箱部材加工



待ち箱の設置

(10) 炭焼き班

1. 活動内容

昨年度に行った修理の結果、2基の窯の同時使用が可能となり炭焼きを行いながら他方の窯の準備を行うことにより毎活動ごとに5~6Kgの炭の生産が可能となりました。2019年度の竹炭の生産量は約60Kgでした。出来上がった炭は、「みかん小屋」など現地での使用のほか、2Kgを段ボール箱に梱包し300円以上の寄付をされた方に返礼品として1箱をお渡ししています。2019年度末現在の在庫は、27ケースですが、新型コロナウイルスの影響で、みかん小屋での消費量も少なくなっており、一層の寄付を募るなど消費を増やす努力が必要と思います。

年度初より進めてきましたバックヤードも、補強材の取付を残し年度内にほぼ完成させることができました。建設にあたりましては、会の皆様方の貴重なご協力応援をいただき有難うございました。



段ボール箱に箱詰めされた奥の谷の竹炭



ほぼ完成したバックヤード

2. 活動の実施経過（活動回数 13回）

2019年

4月24日（水）7:00~16:00 炭焼きと次回準備参加 5名

5月25日（土）7:00~16:00 炭焼きと次回準備参加 9名

6月22日（土）7:00~16:00 炭焼きと次回準備参加 8名

7月21日（日）7:00~16:00 炭焼きと次回準備参加 4名

9月4日（水）10:00~15:00 間伐材運搬参加 4名

9月23日（月）7:00~16:00 炭焼きと次回準備バックヤード作業参加 5名

10月30日（水）7:00~16:00 炭焼きと次回準備バックヤード地均し作業参加 6名

12月4日（水）7:00~16:00 炭焼きと次回準備バックヤード地均し作業参加 6名

12月25日（水）7:00~16:00 炭焼きと次回準備バックヤード基礎作業参加 6名

2020年

1月11日（土）10:00~14:00 バックヤード周辺の樹木伐採炭焼き班の参加 2名

1月18日（土）7:00~16:00 炭焼きと次回準備バックヤード基礎作業参加 6名

2月15日（土）7:00~16:00 炭焼きと次回準備バックヤード棟上作業参加 7名

2月20日（木）10:00~16:30 バックヤード棟上作業参加 6名

3月14日（木）7:00~16:00 炭焼きと次回準備バックヤード屋根作業参加 8名

3. 2020年度の計画

新型コロナウイルスによる感染症対策により4月から活動の自粛を行い、今後の活動がどうなるか予測できない状況ですが、引き続き間伐竹を中心とした炭焼き活動と、完成したバックヤードの効率的な運用を検討し実施いたします。

（代表：米田影一）

(11) 国際ワークキャンプ

「国際ワークキャンプ大阪富田林2019」がNICEと守る会の共催で8月29日(木)～9月12日(木)の間、奥の谷と中野町竹林で実施された(表1)。富田林での国際ワークキャンプは1999年に1回目が開催され、以後毎年開催されて、2019年は21回目の開催であった。これまで奥の谷の「みかん小屋」に宿泊してのキャンプであったが、2018年のキャンプ中に台風21号が大阪を直撃し、「みかん小屋」前の杉の大木が倒れた。幸い小屋に被害はなかったのだが、安全を考慮して2019年は宿泊場所を中野町に新設された民泊を借りて行った

(民泊からは宿泊料など大きなサービスをしていただいた)。奥の谷では人工林の間伐、中野町竹林では竹の間伐などの整備を実施した。8月31日(土)に歓迎会が行われ、富田林市から産業環境部長、みどり環境課長、みどり公園係長が来賓として参加、市長からのメッセージが紹介された。キャンパーは外国人4人(オランダ2人、カンボジア1人、メキシコ1人)、日本人3人であった。ワーク以外にはスライドショー(里山保全と生物多様性、奥の谷の四季)、ディスカッション(各国の環境問題)、クラフトづくり(竹細工など)、着付け、じないまち見学、習字、ホームステイを行った。スタッフを含め地元などから延べ128人が参加した。国際ワークキャンプには協議会から100,000円の財政支援を受けた。宿泊施設を「みかん小屋」から民泊に替えたことにより安心・安全が確保されたこと、守る会スタッフの負担が大きく軽減したことなどのメリットがあった。しかし、費用が増したことに加えて、キャンプリーダーからは便利で快適すぎてキャンパーの一体感が薄れたとの感想が聞かれた。

月	日	曜日	午前	午後	夜	参加者数			計
						キャンパー	地元	子ども	
8	29	木		13:00富田林駅集合 柴辻民泊に移動		7	5		12
	30	金	プレゼン「生物多様性と里山保全」&「奥の谷の四季」 (10:00～12:00)	ワークのオリエンテーション 作業のデモンストラーション		7	4		11
	31	土	ワーク①(9:00～12:30)	クラフト	歓迎会(17:00～19:00)	7	29		36
	1	日	ワーク①(9:00～12:30)	クラフト		7	11		18
	2	月	ワーク①(9:00～12:30)	ディスカッション	ホームステイ(16時～)	7	6		13
	3	火		フリーデー	21時に富田林駅に集合	7			7
	4	水	ワーク①(9:00～12:30)	習字		7	10		17
	5	木	ワーク①(9:00～12:30)			7	8		15
	6	金		フリーデー	21時に富田林駅に集合	7			7
	7	土	ワーク①(9:00～12:30)	お茶		7	9		16
	8	日	ワーク②(9:00～12:30)	流しろーめん	ホームステイ(16時～)	7	8	4	19
	9	月		フリーデー	21時に富田林駅に集合	7			7
	10	火	ワーク②(9:00～12:30)	じないまち見学		7	6		13
	11	水	ワーク②(9:00～12:30)	さようなら会準備	さようなら会(18:00～20:00:キャンパー主催)、会場は里山古民家	7	21		28
	12	木	片付け、総括	昼食後解散		7	7		14
参加者数合計						105	124	4	233

ワーク①:人工林の間伐、ワーク②:竹林整備(中野町)



歓迎会



間伐作業



竹林整備



作業を終えて



お茶



クラフトづくり



習字



さようなら会



(12) NICE 週末・2ヶ国ワークキャンプなど

週末ワークキャンプ

2019年4月より、5、6、7、11、12月及び2020年1、2月と週末ワークキャンプを開催しました。また、週末ワークキャンプへの参加は8回で延べ106名でした。

活動としては、富田林の自然を守る会のご指導・ご協力のもと、間伐、草刈などを実施。また、里山ならではの四季折々の行事（蛍観賞、昆虫観察会、猪解体等）やクラフト（スプーン削りだし）も行き、いずれも参加者から好評でした。

一昨年度の西日本豪雨や台風21号等の影響で倒木や遊歩道の流れた箇所が多数ある中で、週末ワークにおいても遊歩道の開通を優先に、倒木の除去作業等を行うことができました。

しかしながら、未だマンパワーが必要な作業が多数存在するために、来年度以降も継続して参加者増の取り組みを続け、一人でも多くの方に里山に関心を持ってもらうための活動を続けていく予定です。

一方で、リーダーが転勤により不在の状態となっており、後任の育成が課題です。

また、コロナウィルスの流行による活動自粛要請も出されており来年度以降の活動については不透明な状況となっています。

月	日	曜	作業内容	参加者数
4	13	土	里山見学、風倒木処理、シイタケ植菌	7
	14	日	シイタケ積木整理、伐採竹の運搬、タケノコ堀り	5
5	25	土	AM里山見学、PM草刈り	9
	26	日	ため池などの草刈り	9
6	22	土	里山学習、人工林間伐、観察路整備	7
	23	日	里山ホリデーに合流	8
7	20	土	里山見学・昆虫観察会補助	15
	21	日	プレキャンプ	5
11	9	土	風倒木処理	5
	10	日	風倒木処理	5
12	21	土	薪割り、竹のチップ作業	8
	22	日	薪割り、竹のチップ作業、交流会	7
1	11	土	里山見学・どんど準備	6
	12	日	どんどと餅つきに合流	6
2	8	土	工作	1
	9	日	チェンソー講習会	3
延べ参加者数				106



倒木処理

(NICE富田林リーダー 河崎甲志郎)

阪大里山体験学習

NICEの紹介で、大阪大学（人間科学部 共生学科目 国際協力学 澤村・杉田ゼミ）のフィールドワークを受け入れた。期間は7月12日（金）～14日（日）の2泊3日であった。12日はオリエンテーション、13日は里山見学および人工林間伐、14日は雨で作業ができなかったこともあり座談会を行った。後日、62ページに及ぶ報告書が発行されているが（図1）、この中では「このフィールドワークが短期間でありながらも充実したものになった・・・。現場では、里山や団体の活動について非常に多くの知識を授けていただき、参加者全員にとって初めてとなる間伐や伐採したヒノキの皮むきという作業を体験させていただいた・・・」



座談会

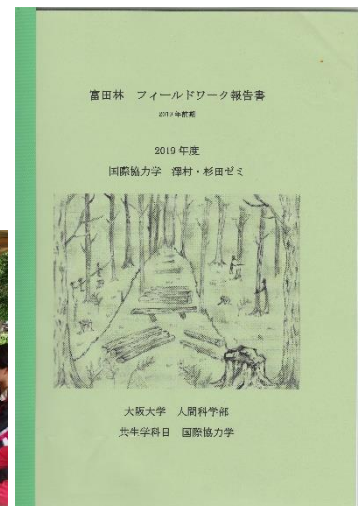


図1 報告書

と述べられている。参加者は先生方2人を含め数10人であった。

香港・日本2ヶ国ワークキャンプ

7月22日（月）～29日（月）、里山見学、人工林間伐、薪割り、クラフトづくりなどを行った。参加者数は15人で、香港のグループを通じて中国本土からの参加者が多かった。



キャンプを終えて

(13) 各種講座の受け入れ・実施

自然環境市民大学（公益社団 大阪自然環境保全協会）

自然環境市民大学は大阪自然環境保全協会において2003年に開校され、富田林の自然を守る会は2004年の第2期生から里山保全の実践講座を担当している。

2019年度(17期生)の受講生は20人で、表1のようなスケ

ジュールで行われた。今回は「古墳の道」のスギヒノキ人工林の北側の尾根道で、1998年の台風7号での倒木が放置されていた荒廃地の整備を行った。当時の枯死した倒木にかずらが絡みつき、ネザサが茂る状態であったが、10m×10mがきれいに整備され「木の芽起こしの丘」と名付けられた。整備作業に先立ち、毎木調査、林床の植生調査などが実施された。また、「古墳の道」の周辺の樹木の名札付けが行われた。

年	月	日	テーマ
2019	11	20	「土壌調査」森林における物質循環(講師:伊藤 孝美)
	11	15	「地域の保全活動」里山を知る-里山の現状と保全の方法-(講師:田淵 武夫)
	1	29	里山保全プログラム企画・立案
2020	2	3	保全活動の実践(新活動・企画運営の実践・作業開始)
	2	12	保全活動の実践(新活動・作業実施・内容確認・発表準備)
	2	19	保全活動の実践(新活動・作業実施・内容確認・発表準備)
	2	26	各班の発表・まとめ・講評



かずらが絡みついた枯死木の伐採処理

新・里山講座（公益社団 大阪自然環境保全協会）

2020年2月23日(日)に「第3回 新・里山講座」奥の谷のフィールド見学と人工林の間伐実習が実施された。受講生9人で、「初めの講義で奥の谷の色々な側面が見れた。先生が「自然だから思った通りにいかない」とおっしゃっていた言葉がすごく印象的だった。思った通りにいかないが、里山に関係する人が試行錯誤しながら、問題に取り組みされており、すごく感動した。間伐では、木が真近かで音を鳴らしながら倒れる。すごく迫力があって、とても貴重な経験が出来て、とても楽しかった」などの感想が寄せられた。



ヒノキの間伐実習

インスト講座（公益社団 大阪自然環境保全協会）

2020年1月18(土)に第29回自然観察インストラクター養成講座の修了生を対象にオプション講座として里山体験講座が行われた。午前中は里山散策、午後は竹の伐採体験を行った。参加者は受講者8人、スタッフ5人であった。

NPO 法人 大阪シニア自然カレッジ

2020年1月8日(水)に14期生の「春の里山観察とお粥作り」の講座が行われた。春の七草の説明のあと奥の谷の「みかん小屋」周辺で「せり」「なずな」「はこべら」「ほとけのぞ」を採集し小豆粥にプラスした。午後は、里山林の生物多様性、その問題点などについて話しながら周辺の里山を散策した。参加者は受講生とスタッフ合わせて30人であった。
東大阪市シニア地域活動実践塾大阪自然環境保全協会から依頼で表記講座において「自然環境と人とのかかわり」と題して講義を行った(講師:田淵武夫)。



チェーンソーのメンテナンス講習

チェーンソーおよび仮払い機安全講習会（富田林の自然を守る会主催）

2020年2月9日(日)に塩田廣大氏(塩田造林)を講師に招いて奥の谷で表記の安全講習会を開催した。当会会員など10人が参加、機械のメンテナンスの説明を受けた後、山林内での実地の伐採などを行い講評であった。

(14) 他団体の行事などの受け入れ

NPO 法人 子どもセンターあさひ（山菜取り）

4月7日（日）に「子どもセンターあさひ」の子どもたちが奥の谷で山菜取り。とった山菜はみんなで天ぷらなどに調理して食べた。子ども16人、大人9人が参加した。

「NPO 法人 子どもセンターあさひ」とは「中高生の居場所の確保・異年齢の子どもたちが共に育ちあう場とし、放課後や週末等を、地域の子もたちに広く解放し、子どもと青年が中心になって、異世代交流を促し、環境・人権・平和・国際協力などについて学び合い、男女参画社会を目指したまちづくりに地域の人たちと共に取り組むことで、子どもと青年の未来をきり開く教育・文化を発展させることを目的とする（ホームページより）」大阪市旭区にある団体。

2日目：山菜とり 行先：富田市の里山（協力：富田市の自然を守る会）

とった野草を自分達でお料理させてもらいました高学年たちは天ぷらに挑戦！食後は野山を散策。オタマジャクシや虫探しに夢中！



高学年メンバーで山菜とりとキャンプのことをまとめた「寺子屋新聞」を作って、「音楽の絵本」のコンサートの時に配布しました。

富田市の子ども会連合会（市子連）

10月27日（日）に開催された協議会の植物観察会（どんぐり観察会）に参加、午後は独自に人工林の間伐体験、ヒノキを一本伐採し、皮むき体験をした。参加者は子ども14人、大人6人であった。

子どもセンターニュース No. 74 より



間伐体験でのヒノキの伐採木の皮むき

新堂小学校ボランティア活動

12月12日（木）に新堂小学校6年生8人がボランティア授業として中野町竹林整備作業を行った。午前中は竹林の間伐、午後は整備に関するワークショップ、最後に竹細工を行った。

彼方小学校どんぐり観察

11月7日（木）に彼方小学校2年生26人、先生2人が参加してどんぐり観察を行った。春日神社に集合、奥の谷まで歩いてシリブカガシ、コナラ、アラカシなどのどんぐりを拾い、奥の谷でポットに植えた。

東条小学校里山体験

11月22日（金）に東条小学校1,2,3,4年生の里山体験が行われた。1,2年生は「秋を見つけよう」のテーマで奥の谷を散策。3,4年生は「里山の学習」のテーマで里山の見学の後ヒノキの間伐を行った。間伐では守る会のスタッフがチェーンソーで切り、みんなでロープを引いて倒した。そのあとチェーンソーで玉切りした丸太材の皮むきを行った。



竹の伐採（新堂小）



参加の生徒たち（新堂小）

NPO 法人 大阪シニア自然カレッジ里山部会

毎月第一金曜日に開催している「里山保全作業」に多数の方が参加している。畑づくりと里山作業に分かれ、里山作業では主に竹林整備作業を行っている。2019年4月～2020年2月に121人が参加した。2020年3月は新型コロナウイルス感染防止のため行事が中止となった。



竹林整備作業（シニアカレッジ）



どんぐり植え（彼方小）



参加の生徒たち（彼方小）

自然環境保全協会関連の団体

自然環境市民大学のOBの方々実践地のメンテナンスに奥の谷を訪れている。2019年度は16期生（4/24）、14期生（4/26）、13期生（5/31、10/27）、8期生（6/18、10/30、3/24）で合計49人の参加であった。「空の会（市民大学OB会）」のつる細工が行われ、8人が参加した。

「まちなか公園自然観察隊」が5月1日に奥の谷でタケノコ堀りを行った。



ヒノキの伐採（東条小）



皮むき（東条小）

東桃谷幼児の園

6月5日（水）大阪市内の民間保育園の「東桃谷幼児の園」の4歳児（園児26人、職員5人）が奥の谷に里山遠足。「水の生き物池」でメダカやオタマジャクシなどの水の生き物捕りを行った。

縄文土器の会

2020年2月から奥の谷で土器づくりの活動を始めた。3月20日に土器づくりを行い、その後野焼きをする予定であったが新型コロナウイルス感染防止のため中止している。この間里山保全活動として薪づくりなどにも参加した。2020年度からは「ナーガ縄文楽会」の名で守る会の班として活動する予定である。



水の生き物探し（幼児の園）

(15) その他の事項

協議会の活動への協力

守る会が中心で進めている協議会主催の種々の行事のほか、協議会が独自に進める「自然環境保全活用調査」、「富田林の自然No. 17」の発行などに協力した。

市への要望

「要求とまちづくり富田林実行委員会」に加入し、この委員会が市に提出した要望書の自然環境にかかわる項目（「農業と自然・住環境を守り歴史と自然文化息づくまち富田林を」の項）の要望をまとめた。この要望に基づく市との話し合いが3月24日行われる予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。またこの要望書に基づく市議会議長あて要望署名にも取り組み、12月10日に提出した。

石川協議会

「石川河川公園自然ゾーン計画運営協議会」に守る会から委員1名が選任されている。7月25日に協議会総会が開催され、「希少種保護マニュアル平成30年度版更新」などについて議論された。また、2020年3月18日に現地調査が行われ、「タコノアシ生育地」、「竹林除去地」、「ミゾコウジュ自生地」、「カヤネズミ保護草地」などを視察した。

相談指導

①2019年7月にライオンズマンション金剛寺池台管理組合が開発事業者および富田林市に提出した「富田林市甘山2丁目の山林伐採に関する要望書」に関連して相談指導を行った。

②錦郡幼稚園が取り組んでいるビオトープづくりについて相談指導を行った。

2019年度の活動参加人数

奥の谷および中野町竹林での活動における年間延べ参加者数は上の表のとおりで、奥の谷では1854人、中野町では160人合わせて2,014人であった。

場 所	行 事	一般	世話人	子ども	計
奥の谷	守る会行事	692	194	12	868
	協議会行事	171	114	59	344
	自主活動	13	110	0	123
	他団体受け入れ	291	75	153	519
	合 計	1,167	493	224	1,854
中野町竹林	協議会行事	23	73	1	97
	自主活動	2	48	0	49
	新堂小学校	1	5	8	14
	合 計	26	126	9	160
総 合 計		1,193	619	233	2,014

(16) 2019年度で特徴的だったこと

1. 「富田林の自然を守る会」設立 30 周年記念事業として、奥の谷の観察路の整備を開始した（観察路の両側 10m を里山的に整備する）。
2. UPS から助成を受け、2 台のチップパーをはじめ作業用の備品、消耗品などが充実した。
3. 「さともり」からの助成を受け、人工林および竹林の整備、施設整備が進んだ。
4. ネザサやノイバラなどで覆われていた「みはらし台」から南への尾根道が開通した。
5. 炭焼のバックヤードとしての小屋が完成した。
6. 薪置き場が増築された。
7. 奥の谷の製材置き場、チップパー置き場、ミツバチ班資材置き場が整備された。
8. 中野町竹林内に、新チップパー置き場が建築された。
9. 中野町竹林の整備が進み、当初の計画がほぼ達成できた。
10. 国際ワークキャンプの宿泊施設を民泊に変更した(2018 年台風 21 号の被害を受けて)。
11. 新型コロナウイルスの感染が始まり、3 月の行事が中止となった。
12. 2018 年度に引き続き、コナラの古木にナラ枯れが多発した。

第2号議案 2019年度 会計決算報告

1.一般会計				
収入の部				
項目	予算額(a)	決算額(b)	増減(a-b)	備考
繰越金	6,153	6,153	0	前年度からの繰越金
会費	90,000	108,000	-18,000	
行事参加費	6,000	0	6,000	協議会の行事を除く行事
寄付	30,000	10,010	19,990	もち米、竹炭
雑収入	10,000	16,765	-6,765	飲料、利子
自然保護特別会計より	0	34,638	-34,638	
合計	142,153	175,566	-33,413	
支出の部				
項目	予算額(a)	決算額(b)	増減(a-b)	備考
行事費	30,000	9,991	20,009	精米代、総会来賓食事代
通信郵送費	10,000	10,578	-578	総会案内等郵送費
消耗品費	20,000	35,379	-15,379	製材、ガソリン、オイルなど
ワークキャンプ費	60,000	104,818	-44,818	
協賛金及び寄付	10,000	0	10,000	
予備費	12,153	14,800	-2,647	エアーコンプレッサー(中古品)
合計	142,153	175,566	-33,413	
* 次年度への繰り越し = 175,556-175,556 = 0 円				

2. 自然保護特別会計

収入の部

項目	金額	備考
繰越金	190,973	
謝礼金・講師料	181,000	大阪自然環境保全協会(自然環境市民大学,新里山講座),大阪シニア自然カレッジ,各種行事受け入れ
寄付金	879,496	「さともし」事業関係者からの寄付(840,000円), 礼付き寄付(9,496円;お礼として竹炭、板などを進呈) 一般寄付(30,000円)
合計	1,251,469	

支出の部

項目	金額	備考
守る会一般会計へ	34,638	
富田林の自然を守る市民運動協議会へ	351,752	
レーザープリンターの購入	143,330	
合計	529,720	

* 次年度への繰り越し = 1,251,469 - 529,720 = 721,749 円

3. 国際ワークキャンプ特別会計

収入の部

項目	決算額	備考
富田林の自然を守る市民運動協議会より	100,000	
自然を守る会一般会計より	104,818	不足分の補填
一般参加費	20,900	スタッフを含む。
寄付金等	6,570	
合計	232,288	


支出の部

項目	決算額	備考
通信印刷費	21,324	・通信・印刷費(NICE;3,000円×7人;送金手数料324円))
キャンプ運営費	53,922	キャンパー食費など
救急用品費	3,980	虫除けスプレー
保険費	8,400	ボランティア保険
宿泊費	100,000	民泊代金
歓迎会費	13,259	食材など
イベント費	22,140	習字・お茶・ソーマン流し・じないまち見学
その他	9,263	飲み物など
合計	232,288	

第3号議案 2019年度会計監査報告

富田林の自然を守る会 2019年度一般会計、自然保護特別会計、国際ワークキャンプ特別会計、UPS 助成金特別会計について歳入歳出決算書、証拠書類および帳簿を審査したところ、収支とも適正であることを認めます。

2020年5月31日

富田林の自然を守る会会計監査
市川悦久 

第4号議案 2020年度活動方針・計画

I. 活動の方針

自然生態系の保全・生物多様性の保全を目標に富田林市内全域の自然環境保全を視野に活動する。大きく分けて「自然生態系・生物多様性保全に係る直接的な活動」、「自然に関わる文化的活動(自然とふれあう活動)」、「自然観察、調査研究、提言・要望、広報・啓発活動」の3つの活動を統一的にとらえて活動する。また、自然豊かなまちづくりをめざし、行政や多くの市民や市民団体とも協力し、協働して活動する。

II. 具体的活動

1. 自然生態系・生物多様性保全に係る直接的な活動

(1) 里山保全活動

奥の谷および南原を中心に次のことに取り組む。①雑木林の林床管理(下樵りを中心に)、②人工林(スギ・ヒノキ林)の管理(間伐、枝打ちなど)、③竹林管理(雑木林および人工林へ侵入したタケの除伐、竹林の管理)、④作業路(観察路)づくり、⑤草地管理(休耕田とその畦、ため池の土手などの草刈り)、⑥水生生物の保護と育成(水の生きもの池の管理)。

当会の30周年記念事業として、「観察路とその両側10mの里山的整備」を、2019年度を起点として開始したが、上記①～④の作業において引き続き取り組む。

(2) 市街地の自然保護活動

市街地に残る自然は人々の生活にごく身近な自然であり、また、里山の間をつなぐ生き物のネットワークとして極めて重要な自然である。中野町の河岸段丘崖の竹林はその一つであり、2009年より整備を進めている。2019年度には、2015年に作成した基本整備案をほぼ達成したが、竹は毎年多数の筍が生育するため、継続した管理が必要である。また、植生豊かな林床を形成することが必要である。引き続き竹の間伐、外縁部の草刈りなどの管理を行うとともに、近隣の里山などから実生あるいは挿し木などで増やした植物を植栽し、市街地内に残る自然の見本林となるよう整備を進める。

(3) 石川の自然保護活動

大阪府が設置する「石川自然ゾーン計画・運営協議会」は「自然を守る会」から1名の委員を選任している。この協議会における、石川自然ゾーンのあり方について議論や調査活動などに参加する。また、市民団体の「石川クラブ」の活動に参加する。必要に応じて石川全体の自然保護について検討する。

2. 自然に関わる文化的活動(自然とふれあう活動)

里山における人々の生活の中で、水田耕作、畑づくり、炭焼きなど様々な文化が形成されてきた。里山の自然を守るにはこれらの里山文化を守っていくことが大切であり、そのことを通じて人々が自然と触れ合い、自然の素晴らしさ、大切さを実感する。前年に引き続き以下のことに取り組む。①米作り、②竹炭焼き、③シイタケ栽培、④果樹栽培、⑤日本ミツバチの飼育、⑥畑づくり、⑦野草を食べる会、⑧里山クラフト、⑨里山工作、⑩どんどともちつき、⑪自然観察(植物、昆虫、野鳥、水生生物；観察した結果は調査としても活用する)。また、2019年度に奥の谷において新たに縄文焼きの試みがなされたが、2020年度より正式に会の取り組みに位置付ける。

3. 自然観察、調査・研究、提言・要望、広報・啓発活動

自然を守るためには、そこにどのような自然があるかを調査し、それらの自然を守るにはどうすればよいかを提言し、地域住民や地権者などの理解を得て、行政などに要望して政策に反映することが必要である。

(1) 調査・研究活動

調査研究活動としては次のことを行う。①自然観察(植物・昆虫、野鳥、水生生物)、②自然環境保全活用調査(富田林市の調査に協議会を通して協力)、③モニタリング1000里地

調査(植物、チョウ；環境省の調査で日本自然保護協会を通じて行う)、④錦織公園自然調査(大阪自然環境保全協会の都市公園自然調査研究会の調査に協力)など。

(2) 提言・要望活動

提言・要望活動としては次のことを行う。①「要求とまちづくり富田林実行委員会」に加入し、市内の各種市民団体と協力して富田林市に要望書を提出して話し合いに参加する。この中で自然環境保全に関する要望を担当する。②その他必要に応じて提言・要望活動を行う。

(3) 広報・啓発活動

「富田林の自然を守る会/公式ホームページ」(<http://tondabayashinoshizen.g3.xrea.com/>)、フェイスブック「富田林の自然を守る会」(<https://www.facebook.com/FuTianLinnoZiRanwoShouruHui?fref=ts>)、ブログ「富田林の自然を守る会+奥の谷」(<https://okutaninosatoyama.xn--u9jycua9732as8mulan81e9sryfi686a.com/>)を適宜更新し、活動の状況や会の情報を広報する。また、協議会が発行する「富田林の自然」誌の発行に協力する。会報「富田林の自然を守る会だより」の発行に努める。

Ⅲ. 自然環境を守る政策、行政・地域との協働

1. 富田林の自然を守る市民運動協議会

昨年にひきつづき、協議会の事業に積極的に取り組む。具体的には次の事業などが計画されている(富田林の自然を守る市民運動協議会2020年度活動計画より)。

里山保全活動(里山ホリデーおよび里山保全作業と交流会)、中野町竹林管理、文化的行事[田植え、稲刈り、稲こぎ、春の野草を食べる会、里山クラフト、どんどこもちつき、里山生活入門、植物観察会、昆虫観察会、野鳥観察会、水の生き物観察会、観察会入門(春を見つけよう)]。また、「富田林の自然」誌の発行、自然環境保全活用調査、生物多様性保全に関する取り組みなども計画されている。

2. 石川自然ゾーン計画・運営協議会

大阪府が設置している当協議会に1名の委員を送り、石川の自然環境のあり方について議論する。

3. 地域との協働

引き続き水利組合、NICE、初芝富田林校と協働で溜池の土手・水路の脇などの草刈りを実施する。また、奥の谷、南原などの地権者の理解を得て、里山保全活動について、協議会との「覚書」を交わす。

Ⅳ. 外部団体との共催、協力、依頼、相談など

1. NICE(日本国際ワークキャンプセンター)との共催事業

(1) 国際ワークキャンプ大阪富田林2020

富田林の自然を守る市民運動協議会の協力のもと、NICEと共催で取り組む。

(2) NICE週末キャンプ(プレキャンプ、秋・春合宿を含む)

原則として月1回の週末キャンプを「みかん小屋」に一泊して取り組む。

(3) その他

その他NICEを通じて要請があるワークキャンプなどについて可能な限り受け入れる。

2. 公益社団法人大阪自然環境保全協会

保全協会の提携団体として登録し協力して活動する。「自然環境市民大学」、「新・里山講座」、「カレーライスを本当に手作りするプロジェクト(ナンバルガンバルが担当)」を受け入れる。

3. NPO 法人大阪シニア自然カレッジ

「竹の除伐・竹林整備」、「七草摘みと七草粥」の講座を受け入れる。また、当カレッジの

「里山グループ」と協働する。

4. 富田林市市民公益活動支援センター

当支援センターに登録し、市内のNPOなどとの連携を図る。

5. その他

そのほか各種の依頼・相談は可能なかぎり受け入れる。

V. 施設・設備の整備

必要に応じて「みかん小屋」とその周辺、中野町竹林とその周辺の施設、設備などの整備を行なう。

VI. 班活動

右表に示す12の班を構成し、班活動を充実する。このうち「植物苗作り班」と「ナーガ縄文楽会」は2020年度に新しく構成される班である。

班活動		
No.	班名	代表者
1	観察会班	田淵武夫
2	草刈り班	楠本孝一
3	米作り班	三嶋富士夫、上角敦彦
4	里山工作班	奥村 勉
5	施設整備班	市原二郎、楠本孝一
6	植物苗作り班	田淵武夫
7	炭焼班	柴山朗生
8	ナンバルガンバル	水元 勇
9	中野町竹林整備班	上角敦彦
10	ナーガ縄文楽会	本宮 水
11	薪作り班	本宮 水
12	ミツバチ班	山本 哲

VII. その他

1. 30周年記念事業

富田林の自然を守る会は2019年6月に設立30周年を迎えた。記念事業として2019年を起点として奥の谷の観察路整備を開始した。また、記念集会およびエコツアーを計画したが、新型コロナウイルス感染防止のため延期となっている。感染拡大の状況、行政からの自粛要請などの状況を見ながら、可能であれば実施する。

2. 里山からの生産物の有効利用

一口300円の寄付に対して薪、間伐材(丸太、製材した板)、竹炭などを返礼品として提供する。

3. 助成金

上記のいくつかの事業は林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業」(さともり事業)の「森林資源利用タイプ」の助成(840,000円)を受けて実施する。

また、2019年度にUPSからおおむね3年間の事業として、観察路整備および市街地の竹林整備に対して総額45,990\$ (4,963,700円)の助成を受けている。

4. 新型コロナウイルス感染防止のための指針

7月の世話人会において「富田林の自然を守る会の活動における新型コロナウイルス感染防止のための指針」(別紙)を策定した。今後の活動はこの指針に基づいて行うこととする。なお、協議会主催の行事については4月～9月までの全ての行事を中止することになっている。

5. 活動の日程等

活動の日程等については「富田林の自然を守る会/公式ホームページ」(<http://tondebayashinoshizen.g3.xrea.com/>)を参照。

第5号議案 2020年度 予算案

1.一般会計

収入の部

項目	予算額	前年度決算額	備考
繰越金	0	6,153	
会費	100,000	108,000	
寄付	30,000	10,010	
雑収入	15,000	16,765	飲み物等の売り上げ収入・利子等
自然保護特別会計より		34,638	
合計	145,000	175,566	

支出の部

項目	予算額	前年度決算額	備考
行事費	5,000	9,991	協議会の行事を除く行事
通信郵送費	10,000	10,578	総会案内など
消耗品費	10,000	35,379	
ワークキャンプ費	100,000	104,818	
協賛金及び寄付	10,000	0	
予備費	10,000	14,800	
合計	145,000	175,566	

2.国際ワークキャンプ特別会計

「国際ワークキャンプ大阪富田林2020」の実施が予定されており、例年通り、特別会計をおく。

3.自然保護特別会計

講座、講演等の謝礼金をもとに「自然保護特別会計」を置いており、昨年度からの繰越金が721,749円となっている。2019年度も例年通り特別会計をおく。

4.UPS助成金特別会計

2019年度にUPSからの助成金を得ており、特別会計を2020年度に継続する。

第6号議案 2020年度役員(案)

代表 田淵武夫
 会計 上角敦彦
 会計幹事 市川悦久
 世話人 伊佐知子、石垣和美、市原二郎、奥村 勉、笠原英俊、金子芳正、岸本重男、
 楠本孝一、五箇 哲、瀬戸照行、三嶋富士夫、見村匡人、山本 哲、本宮 氷、
 水元 勇、柴山朗生

[会員数:164人、2団体(7月1日現在)]

2020年6月

富田林の自然を守る会の活動における新型コロナウイルス感染防止のための指針

富田林の自然を守る会

富田林の自然を守る会(守る会)の活動における新型コロナウイルス感染防止のための指針を定める。この指針は守る会が行う里山保全作業、自然観察、自然環境調査、外部団体を受け入れて行う活動など守る会がかかわるすべての活動に適用する。

- 1.各活動における責任者(例えば各班の代表者)は事前に守る会の代表者に活動の予定(日時、活動内容、参加予定人数)を届ける。
- 2.活動終了時には活動報告書を提出する。
報告書には実際に行った作業内容、参加者名簿(住所、電話番号など後日連絡可能な内容が記されていること)、その他必要に応じて感染防止を含め安全上、気になったことなどが記されていること。
- 3.活動拠点場所(集合場所)の最大受け入れ許容人数を次のように定める。

奥の谷

- ・「みかん小屋」 10人程度
- ・みかん小屋前の広場 30人程度
- ・炭焼き小屋周辺 30人程度

中野町の竹林 15人程度

その他の場所 その都度定める

(受け入れ許容人数の基準は、屋外はおおむね3m²、屋内はおおむね4m²に1人とする)

各拠点地の面積

みかん小屋：約40m²、みかん小屋前広場：約100m²、炭焼き小屋周辺：約130m²、
中野町竹林(黒田さん宅の庭)：約40m²

- 4.各活動の責任者(班の代表者など)は次のことに注意すること。
 - ・熱がある人、体調がすぐれない人は活動に参加させない。
 - ・3密(密閉、密集、密接)を避ける。
 - ・各人が2m以上の間隔をとることを原則とし、1m以内には近づかないように注意する。談話などでは原則としてマスクを着用する。食事は各人2m以上の間隔をとる。(ただし、家族の場合はこの限りでない；屋外では密閉は関係ない)
 - ・水道水がないため十分手洗いができないので、手指をアルコールでたびたび消毒する。
 - ・テーブルはたびたびふきん掛けする。
 - ・複数の活動が同一日に重なる場合は、上記許容人数を超えないように調整する。(班活動などについては、活動日、作業内容、参加人数などを事前に守る会代表に連絡する。代表は上記許容人数を勘案して調整する。基本的には先に予定されている行事を優先する)
 - ・屋外での作業は、各人が1m以上離れて作業することを原則とし、熱中症予防の観点から、マスクは使用しなくてもよい。ただし、接近して作業せざるを得ない時にはマスクを着用する。
 - ・参加者が新型コロナウイルスに感染したことが確認された場合には直接または活動代表者を通じて守る会代表に報告し、守る会代表は関係機関に報告する。
- 5.今後の活動について
 - ・新型コロナウイルスの感染拡大の状況、国や大阪府の動向(緊急事態宣言、活動自粛要請など)などを見ながら世話人会において判断する。

富田林の自然を守る会会則

(名称)

第1条 当会は「富田林の自然を守る会」と称する。

(目的)

第2条 当会は次のことを目的とする。

- ①身近な自然に親しみ、自然を愛する心をやしなう。
- ②富田林の自然を守り、住みよいまちづくりをすすめる。

第3条 当会は前条の目的を達成するために次の活動を行う。

- ①自然観察会や調査活動を行う。
- ②講演会などを開き、自然保護について学習する。
- ③富田林市内の里山保全の活動を行う。
- ④機関誌「富田林の自然を守る会だより」を発行する。
- ⑤その他目的達成に必要な活動を行う。

(構成)

第4条 当会は第2条および第3条に賛同する個人および団体で構成する。

(財政)

第5条 当会の財政は、会費、行事参加費、寄付金および助成金等をもって充てる。

第6条 個人会員の会費は年間1口1,000円、団体会員の会費は年間1口2,000円とする。

第7条 助成金等の財源を得て取り組む事業については、特別会計を置く。

第8条 当会の会計年度は4月から翌年の3月までとする。

(役員)

第9条 当会に次の役員を置く。

- 代 表 1名
- 会 計 1名
- 会計監事 1名
- 世話人 若干名

上記役員の外に顧問を置くことができる。

第10条 役員任期は1年とし、役員は総会で決定する。

(会議)

第11条 定期総会を年1回開催し、事業計画、予算、役員その他会の運営に必要な事項を審議する。総会は必要に応じ臨時に開催することができる。

第12条 世話人会は原則として毎月1回開催し、具体的な活動計画などについて審議する。

(事務局)

第13条 当会は事務局を代表宅に置く。

(残余財産の処置)

第14条 当会が解散（合併又は破産による解散を除く。）したときに残存する財産は、特定非営利活動促進法11条3項に掲げるもののうち総会において議決したものに譲渡する。

附則

①会の役員は次の会員とする。

- 代 表 _____
- 会 計 _____
- 会計監事 _____
- 世話人 _____

②この規約は2008年6月13日から適用する。

③2009年6月12日一部改正。

④2012年6月1日一部改正（第14条）。